**図　画　工　作　科　学　習　指　導　案**

日　時　　年　月　日（　）

　　　　　：　～　：

対　象　第　学年　組

授業者

会　場　図画工作室

**１ 題材名** 　「どろどろ　カッチン　～ほわさんから見てみると～」

A表現(1)イ(2)イ,B鑑賞(1)ア,〔共通事項〕(1)ア,イ

**２ 題材の目標**

**（1）「知識及び技能」に関する目標**

・自分の感覚や行為を通して，液体粘土で固めた形やイメージした作品の色などの感じが分かる

・液体粘土を染みこませた形からイメージした作品を工夫してつくる活動を通して，材料や用具を適切に扱うとともに， 前学年までの材料や用具についての経験を生かし，手や体全体を十分に働かせ，表し方を工夫して表す。

1. **「思考力・判断力・表現力」に関する目標**

　　・芯材に液体粘土を染みこませた布を覆い固め、固めた形からイメージして表したいことを見付けることや， 形や色，材料などを生かしながら，どのように表すかについて考える。

・つくった作品を鑑賞する活動を通して，造形的なよさや面白さ，表したいこと，いろいろな表し方などについて，感じ取ったり考えたりし，自分の見方や感じ方を広げる。

**（３）「学びに向かう力、人間性等」に関する目標**

　　・芯材を組み合わせて形をつくることや、液体粘土をつかって固めた形からイメージして表したいことを見付けることを楽しみ、材料を生かしながらどのように表すかについて意欲的に取り組む。

**３ 評価規準**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知知識及び技能 | 思思考力・判断力・表現力 | 主学びに向かう人間性 |
| 1. 自分の感覚や行為を通して，液体粘土で布を固めた形などの感じが分かっている。 2. 芯材に液体粘土を染みこませた布を覆い固め、その形からイメージした作品を工夫してつくる活動を通して，材料や用具を適切に扱うとともに， 前学年までの材料や用具についての経験を生かし，手や体全体を十分に働かせ，表し方を工夫して表すことができる。 | 1. さまざまな心材に液体粘土を染みこませた布を覆い固め、固めた形からイメージして表したいことを見付けることや， 形や色，材料などを生かしながら，どのように表すかについて考えている。 2. 自分たちの作品の造形的なよさや面白さ，いろいろな表し方などについて，感じ取ったり考えたりし，自分の見方や感じ方を広げている。 | 1. 芯材を組み合わせて形をつくることや、液体粘土をつかって布を固めた形からイメージして表したいことを見付けることを楽しみ、材料を生かしながらどのように表すかについて意欲的に取り組んでいる。 |

**４ 題材について**

1. **題材観**

例）本題材は、小学校学習指導要領(平成29年告示)

図画工作　A表現(1)イ(2)イ,B鑑賞(1)ア,〔共通事項〕(1)ア,イ

A表現（１）イ

絵や立体，工作に表す活動を通して，感じたこと，想像したこと，見たことから，表したいこと

を見付けることや，表したいことや用途などを考え， 形や色，材料などを生かしながら，どのよう

に表すかについて考えること。

A表現（２）イ

　 絵や立体，工作に表す活動を通して，材料や用具を適切に扱うとともに， 前学年までの材料や用

具についての経験を生かし，手や体全体を十分に働かせ，表したいことに合わせて表し方を工夫して

表すこと。

B鑑賞（１）ア

ア　身近にある作品などを鑑賞する活動を通して，自分たちの作品や身近な美術作品，製作の過程などの造形的なよさや面白さ，表したいこと，いろいろな表し方などについて，感じ取ったり考えたりし，自分の見方や感じ方を広げること。

〔共通事項〕(1)ア,イ

　　　ア　自分の感覚や行為を通して，形や色などの感じが分かること。

イ　形や色などの感じを基に，自分のイメージをもつこと。

を受けて設定した。

　本題材は、いろいろなものを組み合わせた芯材に、液体粘土を染み込ませた布を覆いかぶせて、固

める。そして、乾燥してからはがし、出来上がった形からイメージを広げて作品に表す内容である。

芯材を抜かないで作品つくりに入る方法もあるが、芯材を抜くことにより出てくるいろいろな形から

どのような新しいイメージが浮かぶかを児童が考える部分（思考力・判断力・表現力）に重点を置い

ているため、このような題材設定とした。

**(2)児童観　※各学校の児童の実態に合わせて記入する　以下例文**

　　　第4学年の児童が、芯材をもちいた題材に取り組むのは第3学年時「カラフル粘土のお店へようこそ」から２回目である。その際には、つくりたいものに合わせて、ペットボトルや段ボール、割り箸や爪楊枝などの芯材をもちいた。児童の片手に収まる大きさの作品つくりだった。今回はペットボトルや発泡スチロールシートなど、児童の両手で抱えるほどの大きさである。作品の大きさが変わることで児童の視点が変わる。今まで考えたことのないような発想の広がりが出るであろう。また、液体粘土を使用するのは本題材が初めてだ。新しく液体粘土と芯材を組み合わせることにより、より量感のあるダイナミックな造形活動を設定した。

　　　そして、この時期の児童はイメージと形と色の感じとの関係が低学年の時よりも、より具体的になる。芯材の形を基に布を液体粘土で固めた形からさまざまなものを具体的にイメージして、色を考えて着色したり、そこから思いついたものを副材料を選び取ってつくったりと、様々な活動が予想される。一人一人が形から豊かにイメージを広げ、技能と発想を行き来しながら、造形活動を楽しんでほしい。

1. **教材観**

教材の特性として主に３つの特徴があると考える。

* 1. 液体粘土の特徴として「ドロドロ」「トロトロ」「べとべと」から乾燥することにより「カチカチ」「コツコツ」「ぱりぱり」と触り心地が変化することが挙げられる。この変化は4学年児童が使用してきた他の材料には見られないものである。驚きや発見など、豊かに感じたことが表現へと生かされることであろう。また、液体粘土の「ドロドロ」「トロトロ」「べとべと」は、初めは若干の抵抗があるものの、触って「気持ちいい」ものである。触りながら、芯材と布がくっついていく感じ、布のドレープが液体粘土によってより形がはっきりしてくる感じなど、活動をしながら気づく点が多々ある。そこからイメージを広げて、次時への作品つくりへ繋がる。
  2. 芯材からはがすことによって出てくる形の面白さがある。液体粘土を塗っていた時には見えてこなかった形が、芯材からはがすことによって見えてくる。360度、立体的に、様々な角度からいろいろな形が見えてくることにより、様々なイメージが広がるであろう。
  3. イメージを広げるための手段として「ほわさん」という、緩衝材でつくった小さな人形を用意

　　した。「ほわさん」の視点から形を見てみると、児童の視点とはまた違ったイメージが浮かぶ。

本時では、「ほわさん」視点のカメラを使って、授業者が作品を見る時間を設ける。そこから見

ると、また違った新しい感じの形のイメージが浮かぶ。「ほわさん」の視点を入れることにより

「浮かばない」「どうしたらいいの」「どうやってつくればよいかわからない」という児童がよ

り「自分のイメージ」でつくり出せるようにと考えた。

　　　上記三つの教材の特性を生かし、児童が豊かな発想ができるようにと考えている。

**５** 題材の指導計画と評価計画 （７時間扱い）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時間 | 主な学習活動 | 評価の観点  （評価方法） |
|  | ・題材の予告を学級の時間をつかって動画で行う。  ・材料である布や芯材の準備を知らせる。 |  |
| ９０分 | ・題材について知る。  ・ほわさんをつくる。  ・芯材を組み合わせて形をつくり、そこに液体粘土を染み込ませた布  　を覆いかぶせて乾燥させる。 |  |
| 本時  ４５分  ９０分 | ・乾燥した作品を、芯材からはがし、そこからどんな作品にしていく  かのイメージを広げる。  ・作品のイメージに合わせ、水彩絵の具を工夫して使って着色する。 | 知①活動の様子・作品  思①活動の様子 |
| ９０分 | ・作品のイメージに合わせて副材料から選び、工夫して表す。 | 知②活動の様子・作品  思①活動の様子・作品 |
| ４５分 | ・自分のつくった作品や、友人のつくった作品の造形的なよさや面白さをみつけ、鑑賞カードに書いたり、発表して交流したりする。 | 思②鑑賞カード・発言 |

**７** 本　時 （全７時間中の第３時間目）

1. 本時の目標

芯材に液体粘土を染みこませた布を覆い固め、固めた布をはがすことによって見えてきた形からイメージして表したいことを見付け、表したいことに合わせて水彩絵の具を工夫してつかって着色する。

(2) 展開（４５分授業）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | ○学習活動　　・予想される児童の反応 | ◎指導上の留意点・配慮事項  ☆評価　知　思　主 |
| 導入  展開①  ２０分 | 〇液体粘土で固めた布を芯材からはがす。  　・ぱりぱりしている。そして真っ白。  　・おもしろい！！カチカチだ！！  いろいろな角度から見たり、ほわさんと一緒に見たりして、どのような作品にしようか考えよう。  〇いろいろな角度から見たり、ほわさんの視点で見たりしながら、どんな作品にするかを考える。  　・はじめから、「お城」にしようと思っていた。後ろから見てもそう見えるようにしたいな。  　・ほわさんから見てみると、まるで「崖」に立っているみたいだな。  　・ほわさんを乗せてみると、大きな動物の背中みたい。何色で塗ったらいいかな。  〇友人がどんなイメージの作品にしていくのかを  　知る。  　・私と同じような形に見えたけど、□さんは「島」にしたのだな。面白いな。 | ◎具体的にイメージができるように、参考作品を3例用意し、児童が見た  ◎授業者が作品をいろいろな角度から見ている姿を見せたり、ほわさんの視点を映した映像を見せたりすることにより、児童のイメージが広がるようにする。  ・机間巡視をしながら、児童がどんなイメージをもっているのかを確認する。  ・イメージが浮かばない児童には、一緒に見ながら考える。  思①様子・つぶやき  ◎イメージの違う何人かに発言させ、友人がどのようにイメージしたかを知ることにより、一人一人見方や考え方のよさを感じられるようにする。 |
| 展開②  ２０分 | 〇作品のイメージに合わせて、水彩絵の具を工夫してつかって着色する。  　・白の色が素敵だから、屋根だけ明るい感じの色で塗ろう。後ろから見てもそうなるように塗るのを忘れないようにしよう。  　・自然がいっぱいの「崖」にしたいから、緑や  黄緑色でぬろう。  　・大きな動物の背中、楽しい感じにカラフルに  しよう。 | ◎どんなイメージで、どのように着色していくか例を挙げながら全体で共有する。  ・着色の際には水分を多めにしたり、絵の具の量を多く使ったりすると塗りやすいことを伝える。 |
| まとめ  ５分 | 〇片づけ  〇本時の振り返りと次時の予告 | ◎必要な材料があれば用意するように伝えたり、授業者側で用意できるものを伝えたりする。 |

**８** 学習の準備

児童： 水彩絵の具用具一式

授業者： 「ほわさん」の視点を映すための小型カメラ

**９** 板書計画及び場の設定

○板書計画

いろいろな材料を工夫してつかってつくろう

水彩絵の具

準備

片づけ

予告

　　　　　　　　　　　　　　　　　　学習活動の流れ

1. 芯材からはがそう
2. いろいろな角度から見たり

めあて　　　　　　　　　　　　　　　　 「ほわさん」から見たりして

液体粘土をつかって布を　　　　　どんな作品にするか考えよう。

固めたものからイメージを広げ、 ③ 自分で考えたイメージに合わせ

色を塗ったり、いろいろな材料　　水彩絵の具で色をぬろう。

を工夫してつかったりして

つくろう。

どろどろ　カッチン

　～ほわさんから

見てみると～

つくる時間

：　分まで

〇場の設定　図画工作室

児童3人

児童3人

児童3人

絵の具一式

児童3人

児童3人

児童3人

児童3人

児童3人

児童3人

児童3人

TV

黒　　　板

入口